

## 平成27年度 認知症関係研修会 開催報告

### ■ かかりつけ医認知症対応力向上研修(西京会場) ■

1月30日(土)、ホテル京都エミナース 明治アニバーサリーホールにおいて、医師17名、多職種95名、合計112名にご参加頂きました。

認知症サポート医の森 俊夫先生(京都府立洛南病院)より「認知症の人を診る～認知症ケアパス概念図の使い方～」を演題とし、京都市認知症ケアパス作成の経過や情報共有シートの記入方法、概念図への落とし込み方についてご講演頂きました。

その後、宇治市福祉サービス公社の物部 凡子氏より、認知症カフェに参加され、初期集中支援チームの介入に繋がった事例をご紹介頂き、それに伴うアセスメントシートや、もの忘れ連絡シートの使用方法をお話し頂きました。その後のグループワークでは、認知症サポート医の土井 たかし先生(土井内科医院)がファシリテーター役をされ、グループで活発な意見交換がなされました。終了後のアンケート結果からは、日頃から地域包括支援センターとの連携の重要性や初期集中支援チームの重要性が挙げられましたが、中には初期集中支援チームや認知症ケアパスを初めて知った多職種の方もおられ、継続的な研修を行っていく必要がある、との声もありました。



森 俊夫先生

### ■ 認知症サポート医フォローアップ研修(南部会場) ■



グループディスカッションの様子



加藤 伸司先生

2月13日(土)、京都府医師会館で実施され、59名の医師が受講されました。

基調講演の講師として、認知症介護研究・研修仙台センターの加藤 伸司先生をお招きし、「認知症介護家族の理解と支援」についてご講演頂きました。認知症高齢者が今後益々増加する事が予測される中、高齢者同士の介護や独居のケースも増えるなどの介護形態の変化により、介護負担は増すばかりです。また認知症介護には特有の問題点も多く、介護者がストレスを多く抱えておられるのは周知の事実です。そこで認知症は特別の病気ではなく、中核症状のケアや行動・心理症状を理解することが介護家族の支援につながることを加藤先生はご講演下さいました。家族介護については、それぞれの続柄による問題点も挙げられ、夫が妻を介護するケースが心理的、身体的にも一番負担が大きく、その他、親と子供の間に生じる共依存の関係についても述べられました。

次に京都市紫竹地域包括支援センターの小畑 智子氏より、北区・上京区認知症サポートネットワーク連絡会の取り組みについてご報告頂いた後、地域包括支援センター職員の方とグループディスカッションを行いました。

サポート医の症例提示では、認知症サポート医の村上 陳訓先生(済生会京都府病院)より「認知症と慢性硬膜下血腫」について、認知症サポート医の生天目 英比古先生(蘇生会総合病院)からは「亜急性の認知機能、身体機能低下を呈した2症例」についてご講演頂き、活発な質疑応答で研修会は終了となりました。

### ■ かかりつけ医認知症対応力向上研修【集合研修】 ■



澤田 親男先生



松岡 照之先生

本研修会は、かかりつけ医だけでなく、幅広い標榜科の先生方にもご参加頂き、認知症について基礎から応用、連携までの研修を実施いたしました。

南部会場は、2月27日(土)にホテルルビノ京都堀川で開催し、医師33名、多職種34名にご参加頂き、講師に認知症サポート医の澤田 親男先生(北山病院)と認知症サポート医の松岡 照之先生(京都府立医科大学附属病院)にご講演頂きました。

北部会場は、3月26日(土)にホテル北野屋で開催し、医師13名、多職種45名にご参加頂き、講師は認知症サポート医の成本 迅先生(京都府立医科大学附属病院)と土井 たかし先生にご講演頂きました。

### ■ かかりつけ医認知症対応力向上研修(舞鶴会場) ■

3月5日(土)、舞鶴西駅交流センターにおいて、医師17名、多職種48名にご参加頂きました。

まず、認知症サポート医の荒賀 茂先生(あらが湾岸クリニック)より「開業医からみた舞鶴市の認知症診療の現況」というタイトルで、ご自身の診療所における症例から、診断に必要な検査や画像診断、その後の経過についてご講演頂きました。

次に、認知症サポート医の黒田 友基先生(黒田神経内科医院)から「認知症の治療～BPSDへの対応の実際(薬物療法を中心に)」についてご講演頂きました。BPSDは介護者にとって、ストレスやバーンアウトにつながる大きな課題であるとご教示頂きました。そのBPSDに対する薬物療法についてもご紹介頂きましたが、安易に薬物療法を開始するのではなく、非薬物療法的な対応が可能か否かをまずは検討すべきであると述べられました。参加者からは弄便への対応方法や昼夜逆転した家族の介護負担の軽減方法などの質問が寄せられ、医療従事者だけでなく、サービス担当者会議などの場で多職種とも協働で検討していくことの重要性をご説明頂きました。

その後のグループディスカッションでは、ファシリテーター役の認知症サポート医の山野 純弘先生(舞鶴医療センター)が、自院症例を挙げられ、グループで活発な意見交換がなされました。



荒賀 茂先生



黒田 友基先生

京都府医師会

# 在宅医療・地域包括ケア サポートセンター news

Vol. 11

2016年5月15日

京都府医師会在宅医療・地域包括ケアサポートセンター  
〒604-8585 京都府京都市中京区西ノ京東桐尾町6番地 京都府医師会館3階 tel.075-354-6079 fax.075-354-6074

在宅医療・地域包括ケアサポートセンター news は28年度より奇数月15日の発行となります。

## 28年度のご案内

以下研修会は、日医かかりつけ医機能研修制度「応用研修」単位取得の適応となるよう準備をすすめております。  
詳細が決まりましたら、京都府医師会ホームページ又は医報でご案内致します。

## 京都在宅医療塾Ⅰ～探究編～

※基礎講義とグループワークを予定しております。

と き:第1回 8月21日(日) 10時00分～13時00分

と ころ:京都府医師会館 310会議室

講 師:東京都リハビリテーション病院

医療福祉連携室 室長 堀田 富士子先生

と き:第2回 10月16日(日) 10時00分～13時00分

と ころ:京都府医師会館 310会議室

講 師:横浜市立大学附属市民総合医療センター

リハビリテーション科 診療講師 若林 秀隆先生

と き:第3回 12月4日(日) 13時00分～16時00分

と ころ:サンプラザ万助(福知山市)

講 師:梶原診療所 在宅総合ケアセンター長・

オレンジほっとクリニック 所長 平原 佐斗司先生

北部  
開催!!

と き:第4回 2月19日(日) 10時00分～13時00分

と ころ:京都府医師会館 310会議室

講 師:梶原診療所 在宅総合ケアセンター長・

オレンジほっとクリニック 所長 平原 佐斗司先生

## 京都在宅医療塾Ⅱ～実践編～

※全8回で開催します。

と き:第1回 5月19日(木) 18時00分～20時00分

と ころ:京都府医師会館 5F【トレーニングセンター】

テーマ:褥瘡「ちゃんと評価できていますか、治療の選択は?」

講 師:小川皮フ科医院 院長 小川 純己先生

皮膚排泄ケア認定看護師 京都桂病院

看護科長 岡田 依子氏

## 総合診療力向上講座

※北部/南部会場はTV会議システムにより 実施致します。

と き:第1回 7月23日(土) 14時30分～16時30分

と ころ:本会場:京都府医師会館 310会議室

北 部:ホテルマーレたかた

南 部:けいはんなプラザ

テーマ:Self-limitedな病気を診断するというこ

講 師:市立福知山市民病院

研究研修センター長 兼 内科医長 川島 篤志先生

と き:第2回 9月17日(土) 14時30分～16時30分

と ころ:本会場:京都府医師会館 310会議室

北 部:サンプラザ万助

南 部:けいはんなプラザ

テーマ:日常診療で使う「クスリ」と日常診療に潜む「リスク」①

講 師:洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 医長 上田 剛士先生

と き:第3回 11月12日(土) 14時30分～16時30分

と ころ:本会場:京都府医師会館 310会議室

北 部:ホテルマーレたかた

南 部:調整中

テーマ:日常診療で使う「クスリ」と日常診療に潜む「リスク」②

講 師:洛和会丸太町病院 救急・総合診療科 医長 上田 剛士先生

と き:第4回 1月14日(土) 14時30分～16時30分

と ころ:本会場:京都府医師会館 310会議室

北 部:サンプラザ万助

南 部:けいはんなプラザ

テーマ:「かかりつけ医」としての要約能力:

～プロブレムリストはいくつありますか?～

講 師:市立福知山市民病院

研究研修センター長 兼 内科医長 川島 篤志先生

と き:第2回 6月16日(木) 18時00分～20時00分

と ころ:京都府医師会館 5F【トレーニングセンター】

テーマ:「よくあるケガ、皮膚疾患を在宅で治す」

ースキンケア・発疹などの皮膚トラブルの対応ー

講 師:津田皮フ科医院 院長 津田 達也先生

皮膚排泄ケア認定看護師 京都桂病院

看護科長 岡田 依子氏

## 第5回 京都在宅医療戦略会議 報告



3月9日(水) 第5回京都在宅医療戦略会議を開催しました。19地区21名の担当理事が参加され各地区から平成27年度地域医療介護総合確保基金を活用した在宅医療連携拠点事業の実施報告、及び今年度の事業計画について説明頂きました。

北川副会長からは、国の基金を活用した事業の3つの目的が、①地域医療構想の病院機能分化、②在宅医療の推進、③人材確保であることを説明の上、平成30年度以降は、市町村が行う地域支援事業におけるア)～ク)の中で同様の事業を行うこととなるため、国の基金を活用する段階から市町村と交渉していく必要性を説明しました。

また、2月より会員を対象に実施している「在宅医療への取組状況アンケート調査」の回収率と中間報告を行い、各圏域での地域医療構想調整会議において、各地域の在宅医療の現状や将来像を提言する上で参考資料とするためには、回収率を上げる必要があるとし、回収に向けての地区医師会の協力を依頼しました。

## 生活機能向上研修「食支援 Part」北部会場 開催報告



京都ルネス病院 言語聴覚士 浦野 尚人氏



京都山城総合医療センター 作業療法士 田中 俊宏氏



千春会病院 管理栄養士 谷中 景子氏



綾部市社会福祉協議会 介護支援専門員 山下 宣和氏



食事介助に役立つ食器の展示

2月27日(土)に福知山市サンプラザ万助において、生活機能向上研修「食支援 Part」が開催され、医師多職種を含め53名の方に参加頂きました。

福知山医師会会長 井土 昇先生の開会挨拶の後、「在宅でできる摂食嚥下障害の評価と支援」と題し、京都ルネス病院・言語聴覚士 浦野 尚人氏、京都山城総合医療センター・作業療法士 田中 俊宏氏より、嚥下評価と食支援についてそれぞれの専門的なアプローチのご講演を頂きました。

また、千春会病院・管理栄養士 谷中 景子氏から「嚥下調整食とは？経口維持のための食支援について」と題し、嚥下調整食の紹介と訪問栄養食事指導の実際を、事例をもとに入院から在宅への継続的な食支援が在宅での経口維持に重要であること等、課題を含めてご講演頂きました。

最後に、「北部地域での食支援の現状とこれからの取組について」と題する講演の中で綾部市社会福祉協議会 介護支援専門員 山下 宣和氏より、在宅療養における食支援にはケアマネジャーの自立支援・QOLの向上の観点について、意識を高めていくことが重要であると指摘され、綾部での摂食・嚥下をテーマにした多職種在宅医療連携研修会のような地域ごとの研修会の重要性について述べられました。

質疑応答も活発に行われ、多職種が参加し、各専門職がそれぞれの専門領域で療養者の食をどのように支えるかについて学ぶ機会を作ることの必要性を実感した研修会となりました。

## 食支援・排泄支援の相談窓口設置のご案内

在宅療養における生活の質を考える上で欠かす事のできない「食支援」「排泄支援」について、京都府医師会では、関係団体の協力の下、「プレントラスト会議」を開催し、協議を重ねた結果、平成28年4月より京都府医師会 在宅医療・地域包括ケアサポートセンターに相談窓口を設置する事となりました。

府民の皆様や、在宅医療に係る方々の「食」「排泄」の現場の悩みを当センターが窓口となる事で、関係団体にお繋ぎし、少しでも府民の皆様在宅療養上の問題解決に役立つことができると考えております。

「食」「排泄」の事で悩んでいる方は是非、当センターの相談窓口をご活用下さい。

京都府医師会  
在宅医療・地域包括ケアサポートセンター

「食支援」「排泄支援」相談窓口  
(月～金 午前10時～午後4時)  
TEL: 075 - 354 - 6079

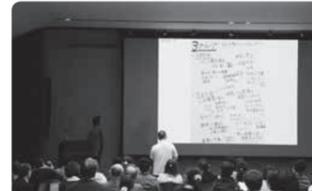
## 第4回 京都在宅医療塾Ⅰ ～探究編～ 開催報告



梶原診療所 在宅総合ケアセンター長・オレンジほっとクリニック所長 平原 佐斗司先生



グループワークの様子



発表の様子

梶原診療所 在宅総合ケアセンター長・オレンジほっとクリニック所長 平原 佐斗司先生をお迎えし、開催して頂きました平成27年度の当研修会も3月6日(日)でシリーズ最終回となり、医師64名、看護師75名 計139名が参加されました。

「がん患者の在宅緩和ケア」をテーマに、講義とグループワークの研修が行われました。

基本講義では、「がん患者の在宅緩和ケア」と題し、がん患者と非がん患者の傾向を紹介された後、がんに伴う疼痛の緩和として在宅での薬剤療法、特にオピオイドの使用方法についてレスキューの設定や副作用等への対応を具体的にご講義頂きました。

グループワークでは「胃がん術後・多発骨転移・肝転移：78歳男性」の事例を提示して頂き、各グループで活発な意見交換が行われ、その後の発表では、各グループから薬、家族、生活環境など様々な角度からの検討が行われました。

発表、全体化の後のミニレクチャーでは、厄介な痛みとして「神経障害性疼痛・骨転移対策」、「高齢者の在宅がん緩和ケアの抱える課題」についてご教授頂きました。

今後、多くの高齢がん患者が、緩和医療・緩和ケアを要するものと見込まれるためケアマネジャーと協力し、介護力の評価や介護支援とともに、患者家族とケアに介入している方々との話し合いの場を持ち、細かく対応していく必要性を感じました。

全4回シリーズで開催致しました当研修会は、延べ587名の方に参加して頂き、シリーズを通して実践に生かせる満足度の高い研修会として終わる事ができました。

### ●受講者のご意見● (参加者アンケートより抜粋)

- 講義→講義に関する課題のグループワーク→発表→ここにおさらいのミニレクチャーと流れが明らかで、研修としては講師の高い力量が必要とされると思いますが、大変勉強になりました。
- グループワークがとても良かった。医師と在宅緩和ケアの問題点や今後の課題について情報交換、共有ができ本音で話が出来た事。訪看に対する要望が聞け、訪看全体の質の向上が重要と再認識。具体的な困難事例内容も良かった。今後十分に生かせる根拠が理解でき、患者さんと家族への説明にも繋がり、質の高い疼痛マネジメントの提供が出来ると思いました。



質疑応答の様子

## 第5回 京都在宅医療塾Ⅱ ～実践編～ 開催報告

### ●受講者のご意見● (参加者アンケートより抜粋)

- 実践的な勉強ができて、大変良かったです。
- 嚥下障害食が新しく開発され、進化している事に驚きました。
- 具体的な検査方法がよく分かった。

3月17日(木)に、「在宅での嚥下評価・栄養管理について」をテーマに開催し、たなか往診クリニック 田中 誠先生が事例を紹介された医師としての立場から「食べることを支援」について、摂食・嚥下障害看護認定看護師 岡田 裕子氏より「食べることを支える」～看護師の立場から～と題して、それぞれ講義頂きました。

その後、訪問看護認定看護師及び講師がファシリテーターとなり、企業からのご協力を得て①「在宅でできる嚥下評価」RSST(反復唾液のみテスト)・MWST(改訂水飲みテスト)・頸部聴診、②「臥床での飲食体験」、③「調整食の体験」の演習を行いました。

最後に、訪問看護認定看護師の勝本 孝子氏より、在宅療養患者の栄養評価に役立つ「嚥下スクリーニングツール」や身長・体重の実測が難しいときの指標について紹介頂きました。

全5回の研修会を通じて、在宅療養を支える医療技術・医療機器やケアについて講義と演習を行うことで、実施している診療技術を見直すことができたというお声を多く頂きました。

今年度も引き続き、様々なテーマで研修を企画してまいります。開催についての詳細は、京都府医師会ホームページ又は医報をご覧ください。



たなか往診クリニック 田中 誠先生



基礎講義の様子



「在宅でできる嚥下評価」にて摂食・嚥下障害看護認定看護師 岡田 裕子氏



「調整食の体験」



「臥床での飲食体験」



質疑応答の様子